



平成 28 年 8 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社ヒマラヤ
代 表 者 名 代表取締役社長 野水 優治
(コード番号 7514 東証・名証第 1 部)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 大野 輝文
(TEL 058 - 271 - 6622 (代表))

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 8 月期において、下記のとおり特別損失を計上いたします。
また、平成 28 年 3 月 22 日に公表した平成 28 年 8 月期の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の内容について

(1) 固定資産の減損に係る会計基準に基づく特別損失の計上

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、周辺環境の変化および経済環境の変化等の影響を受け収益性の低下が見込まれる一部の固定資産（店舗設備等）について、減損損失 696 百万円を計上いたします。

(2) 閉店による特別損失の計上

平成 28 年 8 月 17 日開催の取締役会において、財務体質の健全化、事業体質の強化を目的に、来期となる平成 29 年 8 月期の期中に不採算店 13 店舗の閉店を行うことを決議いたしました。

これにより、店舗閉鎖損失引当金繰入額 405 百万円を計上いたします。

(3) 熊本地震による特別損失の計上

平成 28 年 4 月に発生した「熊本地震」により、店舗建物・設備の一部損壊や、たな卸資産の被害等が発生したため、災害による損失 182 百万円を計上いたします。

(4) 連結子会社株式の減損処理による特別損失の計上（個別決算）

当社の連結子会社である株式会社ピーアンドディーの株式について、経営成績および財政状態の悪化により実質価額が著しく下落したため、平成 28 年 8 月期の個別決算において減損処理を行い、関係会社株式評価損として 973 百万円（見込額）の特別損失を計上いたします。

関係会社株式評価損の金額については、年度末の株式会社ピーアンドディーの純資産額に基づく計上となるため、今後変動する可能性があります。

なお、個別決算で計上されるこの特別損失は連結決算では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

2. 業績予想の修正について

平成 28 年 8 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 73,500	百万円 1,560	百万円 1,635	百万円 710	円 銭 57.63
今回修正予想(B)	71,400	652	734	758	61.52
増減額(B-A)	2,100	908	901	1,468	
増減率(%)	2.9	58.2	55.1		
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 8 月期)	72,360	2,358	2,461	1,242	100.85

平成 28 年 8 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 65,800	百万円 1,840	百万円 960	円 銭 77.92
今回修正予想(B)	64,000	1,122	1,304	105.84
増減額(B-A)	1,800	718	2,264	
増減率(%)	2.7	39.0		
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 8 月期)	64,441	2,586	1,406	114.20

修正の理由

記録的な暖冬により販売不振が続いた後の春以降は、デフレ志向の強まりの中、衣料品を中心にスポーツ用品の価格が相対的に高くなったことから、客数の減少傾向が続くとともに、値引き販売により当初計画の利益を獲得できず、売上高、売上総利益率が計画を下回る推移となりました。

一方、販売費及び一般管理費について、店舗運営費用全般の見直しを行い、当初計画に対して大幅に抑制いたしましたが、売上総利益額の減少影響が大きく、営業利益、経常利益とも計画を下まわる見込みとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益および当期純利益についても、前述の理由に加え「1. 特別損失の内容について」の影響により計画を下まわる見込みとなりました。

これらの理由により、平成 28 年 8 月期の連結業績予想および個別業績予想について上記のとおり修正いたします。

上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上